

19"ところが、アンテオケとイコニオムからユダヤ人たちが来て、群衆を抱き込み、パウロを石打ちにし、死んだものと思って、町の外に引きずり出した。

20しかし、弟子たちがパウロを取り囲んでいると、彼は立ち上がって町に入って行った。その翌日、彼はバルナバとともにデルベに向かった。

21彼らはその町で福音を宣べ、多くの人を弟子としてから、ルスセラとイコニオムとアンテオケとに引き返して、

22弟子たちの心を強め、この信仰にしっかりとどまるように勧め、「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なければならぬ」と言った。

23また、彼らのために教会ごとに長老たちを選び、断食をして祈って後、彼らをその信じていた主にゆだねた。"

ハレルヤ！

イエス様の夢が二つあれば、最初は十字架です。

十字架は死です。

だから、死を望むと思う人はいません。

しかしイエス様は死の背後にある復活を知っていました。

それで、一粒の小麦が地に落ちて死ぬと、多くの実を結ぶと言われました。

イエスは十字架の中に復活があることを知りました。

死の後に命があることを知っていました。

それでイエス様は十字架を希望で考えられたのです。

イエスの二番目の希望はまさに教会です。

十字架を信じる人々のコミュニティは教会です。

教会はイエス・キリストを頭とするコミュニティです。

教会は聖霊の導きに従って同じコミュニティです。

イエス様はそれで弟子を3年間育てられました。

イエス様は昇天された後に聖霊様を送られました。

十字架を目撃した弟子たちが聖霊を受けました。

彼らの集まりがまさに教会になったのです。

今日、私たちはこの場で一緒に礼拝しています。

私たちは皆、十字架の恵みで集まった人々です。

私たちに共通点があるなら、それは十字架の願いを持って生きることです。

それで、私たちは聖霊の導きによって今礼拝をささげています。

イエス様はこの教会に希望を持っておられます。

そしてイエス様は教会についてモデルを見せてくださったのです。

そのモデルがまさに使徒行伝に出てくるアンテオケ教会です。

そしてそのモデルが使徒行伝に出てくるパウロです。

今日はアンディオク教会とパウロを通して多くの恵みを受けることを祝福します。

アンディオク教会が建てられた経緯は次のとおりです。
ステバンによる迫害が始まり、エルサレム教会の信者たちが逃げました。
彼らは逃げた場所でも福音を伝えました。
ところがユダヤ人以外には福音を伝えませんでした。
なぜならユダヤ人だけが神様を知って救われると無意識的に考えたからです。
それで、自分も知らずにユダヤ人にのみ福音を伝えたのです。
ところがアンディオクに逃げた何人かの人々がユダヤ人だけでなくギリシャ人にも福音を伝えました。
そうすると、イエス様の驚くべき歴史がその異邦人たちの間に起きたのです。

しかし、ミッションの歴史には常に壁を越える歴史があります。
地域を越えて、
だから遠いところから宣教師がやってくるのです。
アメリカから日本に来て、
日本からアフリカに行き...
また言語を越えます。
インドネシアの言語は分かりませんが、宣教師はその地域に行き、言語を学び、その言語に伝えます。
民族を越えたりもします。

今アンディオクではこのような壁を越える宣教の歴史が成し遂げられたのです。
このニュースを聞いたエルサレム教会はとても驚きました。
そしてこの恵みで建てられた教会に良いリーダーを送ります。
その人物がまさにバルナバでした。
彼はアンディオクに建てられた信仰共同体教会を見てとても嬉しかったです。
そして聖徒たちが心を固め、イエス様の中にとどまるように励ましました。
バナバはその教会を築くためにはパウロが必要だと思いました。
それでパウロを呼んだのです。

本当に不思議なことが起こったのです。
ステバンの迫害の主役はパウロです。
ステバンの迫害で生まれた教会がアンディオク教会です。
ところが迫害の主役であるパウロがアンディオクに招待されたのです。
神はパウロのような人も使用されます。

バナバとパウロは今教会に集まり、彼らを見ことばに教えます。
また、エルサレムで大きな飢饉が起こったとき、
アンディオク教会の聖徒たちは献金を集めてエルサレム教会を助けます。
異邦人がユダヤ人を助ける愛の共同体、障壁を許す共同体が生まれたのです。

バナバはエルサレム教会を深く経験しました。
そしてバナバとパウロはアンディオクで主の教会を建てました。
そして今、バナバとパウロはアンディオク教会で宣教師として派遣されています。
そして一次伝道旅行をすることになります。

その一次伝道旅行の様子が次の図に出てきます。



ビシディア・アンティオクでパウロー行は大胆に伝道をします。
ところが異邦人たちは福音を聞いて喜び、信仰を持つようになります。
しかしユダヤ人は人々を扇動し、パウロとバナバを迫害します。
パウロとバナバはイコニオンに行きます。

イコニオンでも信仰を持つ人がいるのに対し、
ユダヤ人を中心に迫害する人も多かったです。
だから村が二つの波に分かれることもあります。
そして反対派がパウロとバナバを石で打ち殺そうとします。
二人は今回はルステラに行きます。

ところが、ルステラで奇跡が起こります。
パウロの福音を聞いていた人の中に歩けない人がいました。
パウロは彼に信仰があるのを見ました。
パウロは彼に自分の足で歩いてください。！ 命令しました。
すると彼は歩き始めました。

そしてバルナバをゼウス神と呼び、
パウロをヘルメスの神と呼んで寺院を始めました。
すると、ゼウス神殿の司祭が来て、牛と花を飾ります。
群衆と共にパウロにささげて崇拝し始めます。

この姿にパウロとバナバは服を破って大声で叫びます。
「皆さん... 私はあなたのような人間です。
この天地を造られた神様を信じるように私たちが福音を伝えたのです」。
ここでやっと人々がパウロを偶像として崇拝するのをやめました。

しかし、今回はビシディアアンティオクとイコニオンで
パウロを迫害した人々がここまで追いかけてきました。
彼らは群衆を扇動し、パウロに石を投げさせます。

パウロは石を得て血を流し始めます。
精神を失って倒れます。
人々はパウロが死んでいることを知り、村の外に投げ捨てます。

これが今日の言葉19節です。
一度読んでみましょう。

19"ところが、アンテオケとイコニオムからユダヤ人たちが来て、群衆を抱き込み、パウロを石打ちにし、死んだものと思って、町の外に引きずり出した。

パウロはほぼ半分死んでいます。
私はここでパウロの姿を見るととても驚きます。
パウロは宣教師として献身しました。
自分のすべてを神様に捧げたのです。
パウロはアンディオク教会に献身しました。
そして聖霊に従いました。
それで宣教師として今ルステラまで来たのです。
パウロは聖霊に満ちた力のある福音伝道者でした。
それで病人を癒すパワーがあるのでしょうか。
ところがビシディアアンディオク、イコニオン、ルスドラの一部の人々に石に当たって...
ほぼ死にました。

パウロは本当にステバンを迫害した罪がありますが、
それ以降に回心をして...。彼は悪事をしたことはありません。
むしろ彼は聖霊充滿して神様の働きを献身的にしました。
しかし、パウロはなぜこのような苦しみを受けなければなりませんか。
なぜこんなに非難されて嫌われるのですか？

私もこのような経験をする時があります。
私はイエス様のために奉仕し、
時間を割いて、お金を出して、汗をかいて、...
ところが良いことも多いのですが、非難を受ける時もあります。

ところで、この御言葉が思い出されます。
コリント11:2
天使の言葉を言っても、預言をしても、山を運ぶ信仰があっても...。
愛がなければ役に立たない。

パウロが献身し、従順で能力を発揮しても
愛がなければ何の役にも立たないということです。
その愛はまさに苦痛の中で明らかになることです。
そしてこの苦痛の中で愛を悟る時、神様の心を知ることができるのです。

20節を見てみましょう。

20しかし、弟子たちがパウロを取り囲んでいると、彼は立ち上がって町に入って行った。その翌日、彼はバルナバとともにデルベに向かった。

パウロが伝えた弟子たちはパウロを囲みます。
彼らはパウロのために祈りました。
パウロが起きます。
そしてパウロはルステラに戻ります。

ああ、私はこの箇所でも恵まれています。
パウロは恐れ、許せない悔しい心があったでしょう。
ところで、どのようにルスデラに戻りますか？
聖書はここでパウロの心について話しません。
ただパウロの行動について話します。
その行動に心が入っているのです。
彼は立ち上がって自分に石を投げた村に入る。
おそらく自分とユダヤ人がステバンに石を投げたお世話になった心がありました。
そして、彼はすべての村の人が伝道の対象としてしか考えなかったでしょう。
彼ら全員は救われなければならない人々なのです。

この例を一度聞いてみましょう。
階段に木製の手すりがあります。
足が痛い人はその手すりをつかみ、階段を上り下りするでしょう。
ところで、手すりの一箇所に木がとてもし少し広がり、鋭い部分があるとしましょう。
そうすれば、その木をつかんで上り、手が鋭い部分に刺されるでしょう。

私たちの心がまさにそうではないかと思えます。
私たちの心の中に書いた根、傷、怒り、自己憐憫がその鋭い部分です。
気にしなくても、突然そのことが思えば怒って、落ち込んで、力がなくなります。
ところで、本当にある人を見れば、心にそんなことが一つもありません。
シャクがない...と言います。
パウロもそうでした。
どうやったらできますか。
彼はキリストと共に十字架ですでに死んだからです。
死者はどのように怒るのですか？
彼は今生きていますが、それはイエスを信じる信仰によって生きることです。
彼には信仰だけが生きています。

だから石を当てても、その村に再び入るのです。
そしてバナバのように、もう一つの村を訪れます。
そこはテルベというところですよ。

そしてパウロはもう一度その村を訪れます。

21彼らはその町で福音を宣べ、多くの人を弟子としてから、ルスデラとイコニオムとアンテオケとに引き返して、

このルスデラ、イコニオン、ビシディアアンディオク... ここでユダヤ人がパウロをそのように迫害しました。

しかし、この3つの村を再び訪れたのはなぜですか？

その内容は22-23節です。

22弟子たちの心を強め、この信仰にしっかりとどまるように勧め、「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なければならぬ」と言った。

23また、彼らのために教会ごとに長老たちを選び、断食をして祈って後、彼らをその信じていた主にゆだねた。"

人が集まると教会が力があるわけではありません。

信号灯... 昔はランプ一つ...

今信号灯は小さなLEDが集まって行われます

なぜなら遠くから見ると、何倍も良く見えます。

1億人が集まると力があるわけではありません。

軍隊も見ると、軍隊の中にサタン、軍団、旅団、大隊、中隊、小隊...

1000部長、100部長、10部

組織があること、

霊的な場所も同じです。

小グループ

リーダー

役割

賜物

季節

イベント

聖徒総会

ヤクインカイ

組織教会

弟子

心を強く

信仰にとどまる

苦難に勝つことができるはず

リーダー長老を立てる

絶食、祈り

そしてイエス様にお任せ

主張されたリーダーであるイエス